

4 沿 岸 資 源 分 布 調 査

I 調 査 目 的

津軽海峡における冬季の底魚を刺網漁業によって調査し、その資源状態を把握し沿岸漁業の発展に寄与する。

なお、この調査は、栽培漁業事前調査も兼ねる。

II 調 査 内 容

1. 調 査 期 間 47年1月～3月15日
2. 調 査 場 所 津軽海峡の尻矢沖～佐井沖まで（別紙第1図のとおり）。
3. 調査員及び調査船
 - (1) 調 査 員 技 師 沢 田 兼 造
 調査課長 山 形 実
 技 師 田 村 真 通
 技 師 小田切 譲 二
 - (2) 調 査 船 試 験 船 青 鵬 丸 (1 9 . 9 4 トン 1 7 0 P S)
4. 調 査 項 目
 - (1) 環 境 調 査
 - A 表 層 底層水温
 - B 底 質
 - (2) A 種類と分布状況
 - B 魚 体 調 査 (全長、体重、胃内容物、生殖腺)
5. 調 査 方 法

津軽海峡資源分布調査漁場図（第1図）にもとづき、底刺網20反（三枚網2寸8分目25K切り）一放しにして行なった。

III 調 査 結 果

1. 環 境 調 査
 - (1) 調査点は別図1～146点とし1点の柁目を2,000mにした（第1図のとおり）。
 - (2) 表層、底層水温
操業日ごとに表層、底層の漁場水温を観測したところ別紙第1表のとおりである。
 - (3) 底 質 調 査
操業ごとに、SK式円筒型採泥器により採泥し魚群探知機により底状を調査して、平坦なところ

を漁場にした(第1表のとおり)。

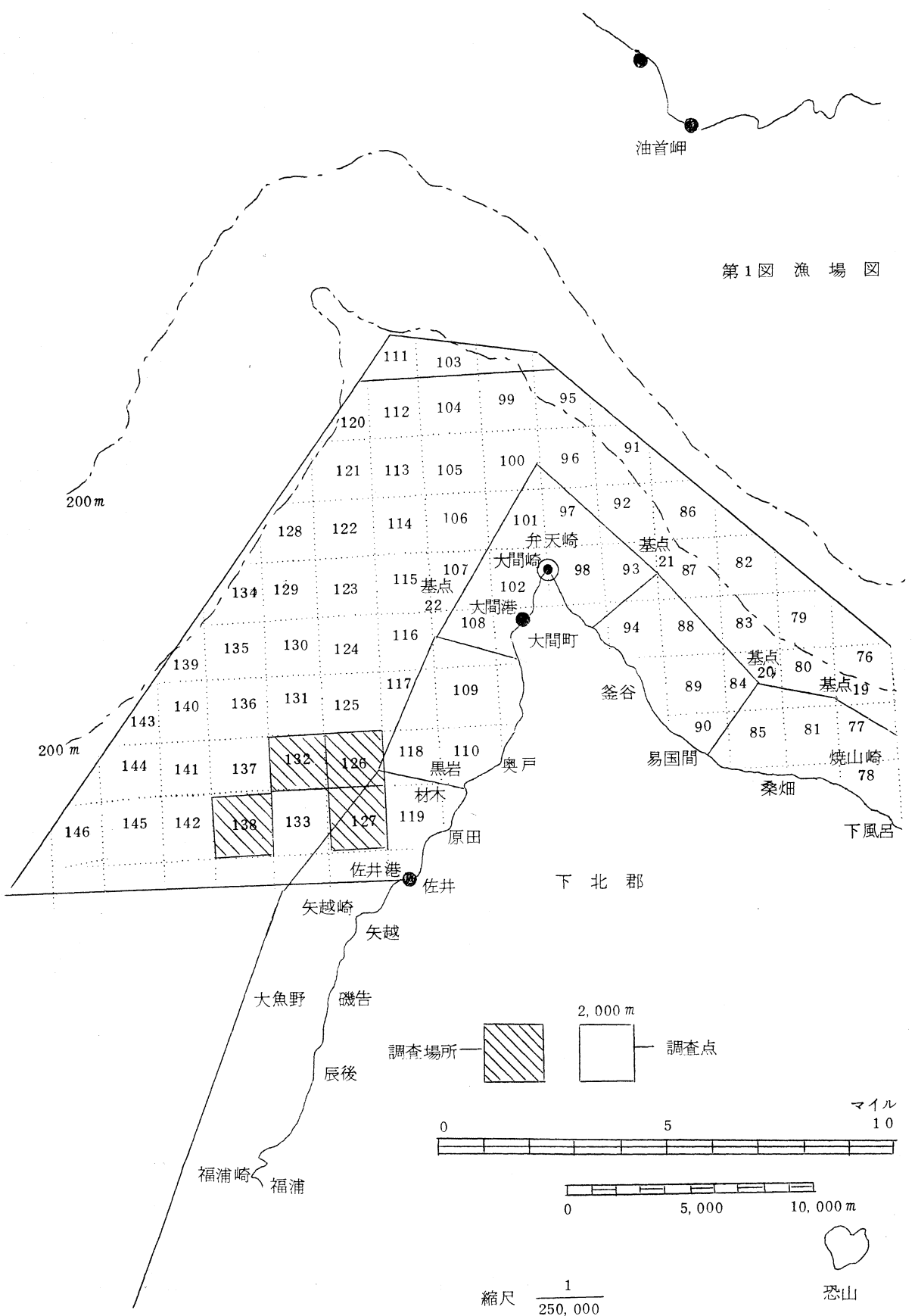
2. 生物調査

- (1) 各調査点の調査は47年1月～同年3月末までにしたが、時期的に季節風による時化が多く、したがって出漁日数も少なく調査期間中9回より操業できなかった。操業場所は第1図に示すとおり大畑港を根拠として前沖を5回操業した。操業海区ごとに漁獲された魚種別漁獲量を比較すると、海区67、71、52、65ではアブラツノザメ934kgでもっとも多く、次にアンコウ65kg、ババガレイ12.5kg、ムシガレイ6kgの順であった。

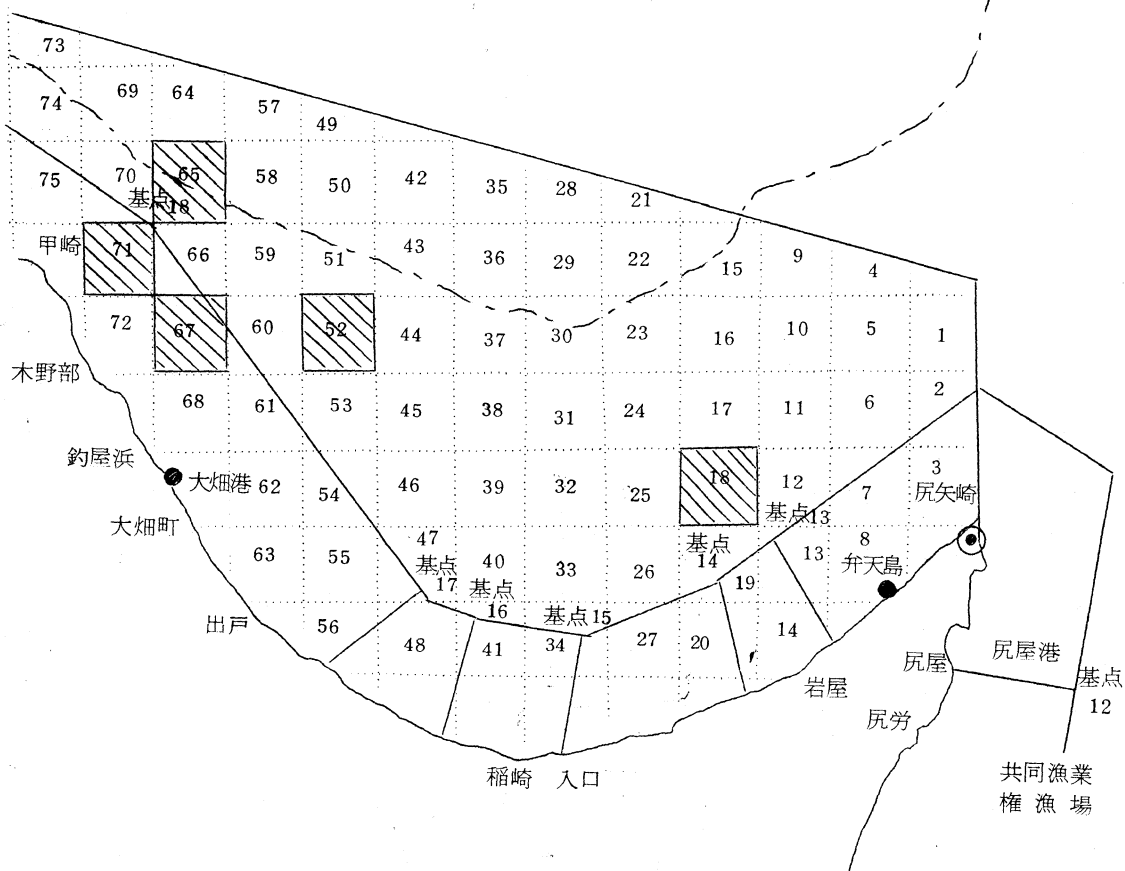
海区別に魚種別漁獲量を比較すると47年1月20日～2月9日までは、大畑前沖で、アブラツノザメの漁獲が最も多く、2月12日～3月15日までの奥戸前沖はカレイ類が多く、その中で、ババガレイが主位を示している。

油首岬

第1図 漁場図



● 日浦岬



調査 点	調査 月日	水深	底質	表層 水温 底層	主 な 漁 獲									
					ヒラメ	アガレイ	マガ ガイ	コイ	パ ガ レイ	バ ガ レイ	ム シ シ	ア ブ ラ ツ ノ ザ メ	アンコウ	アイナメ
67	s47年 1. 20 1. 21	80	S M	表 7. 8 底 7. 7	2 尾 0. 3 K	尾 K	尾 K	尾 K	30 尾 2. 0 K	20 尾 135 K	尾 K	2 尾 1. 0 K	3 尾 1. 0 K	サバ 0. 1 K
71	1. 24 1. 30	85	S	表 7. 0 底 7. 0				7 12. 5		60 97	6 57. 5			タコ 1 4. 5 K
52	2. 4 2. 5	73	S	表 9. 3 底 8. 9					2 0. 5	1 2. 0				
65	2. 7 2. 9	85	R	表 9. 7 底 8. 5	1 0. 3	1 0. 1	1 0. 3	7 3. 6	1 3. 5	300 700	1 7. 5	3 0. 7		カスベ 8. 9 K、ウスメバル 0. 2 K サクラマス 1. 9 K
132	2. 10 2. 12	100	S	表 9. 7 底 9. 6	6 3. 5	13 2. 0	7 5. 0	207 90	10 5. 0		5 33			サメガレイ 0. 1 K、カスベ 1 2 K トラザメ 0. 1 K、ガンギエイ 7. 0 K ホシザメ 6. 0 K、ノコギリザメ 9. 0 K
126	2. 16 2. 18	70	S	表 8. 4 底 8. 3	3 1. 2	2 0. 3	2 0. 2	15 5. 0		4 6. 0				タコ 2. 2 K、スナガレイ 0. 2 K ノコザメ 7. 0 K
18 12	3. 6 3. 7	41 37	S	表 8. 3 底 8. 3		1 0. 2	4 0. 3	5 5. 5			1 0. 8	2 2. 0		スナガレイ 0. 1 K、クサウオ（ゴコ） マホヤ 8 コ、ムラサキウニ 3 0 コ、 1. 2 K
138	3. 9 3. 11	113 100	S	表 8. 7 底 8. 6	1 0. 8		15 0. 2	100 35	14 4. 0		13 46	8 1. 8		サクラマス 1 4 K、カスベ 3. 0 K ガンギエイ 2. 0 K、ノコギリザメ 6 0 K カナガシラ 0. 2 K
127	3. 13 3. 15	100	R	表 8. 5 底 8. 4				15 5. 0			2 2. 0	3 0. 5	2 0. 3	ノコギリザメ 3. 0 K、カスベ 0. 3 K
				計	13 尾 6. 1 K	17 尾 2. 6 K	29 尾 8. 2 K	356 尾 156. 6 K	57 尾 15. 0 K	385 尾 940 K	27 尾 146 K	17 尾 4. 8 K	7 尾 3. 3 K	9 0 尾（計 908 尾 1 7 3 K（計 1. 455. 6 K
				比 率%	0. 4 %	0. 2	0. 6	10. 8	1. 0	64. 6	10. 0	0. 3	0. 2	1. 1. 9 （計 100 %

3. 魚 体 調 査

本調査の主要魚種であるヒラメ、マガレイ、マコガレイ、ババガレイの全長、体重、生殖腺、胃内容物の多項目調査を実施したところ次のとおりであった。

(1) ヒ ラ メ

魚種ヒラメ

(第2表)

漁獲月日	全 長	体 重	性 別		生殖腺 重 量	胃 内 容		成 熟 度
			♀	♂		重量	種類	
47年2.12	49.5 ^{cm}	1.500 ^{kg}		○	0.7 ^g	0 ^g		未 成 魚
"	48.2	1.100	○		8.0	0		"
"	46.0	0.950	○		6.0	0		"
"	46.7	0.950	○		7.3	0		"

ヒラメの多項目調査は漁獲が少なかったため、1回より調査出来なかった
(第2表のとおり)。

(2) マ ガ レ イ

魚種マガレイ

(第3表)

漁獲月日	全 長	体 重	性 別		生殖腺 重 量	胃 内 容		成 熟 度
			♀	♂		重量	種 類	
47年2.12	26.0 ^{cm}	0.203 ^{kg}		○	4.7 ^g	0.5 ^g	コウカク類	成 熟
"	24.4	0.150	○		2.7	0.7	カニ多毛類	"
"	27.3	0.200	○		8.0	0.7	多 毛 類	"
"	24.5	0.174		○	2.0	0.3	クモヒトデ	"
"	24.3	0.150	○		0.1			
"	24.4	0.147	○		3.5	0.6	コウカク類	成 熟
3. 7	25.2	0.160	○		11.5			完 熟
"	20.3	0.050		○	1.8			半 熟

第3表に示したとおりで、漁獲が少なかったため、多項目調査は2回より出来なかった。
2月12日に漁獲されたマガレイ6尾の内4尾は雌、2尾は雄であった。いず

れも成熟で、3月7日に調査した2尾の内1尾は雌で完熟、雄半熟であった。

(3) マ コ ガ レ イ

魚種マコガレイ

(第4表)

漁 日	全 長	体 重	性 別		生殖腺 重 量	胃 内 容		成 熟 度
			♀	♂		重量	種類	
47年2.12	38.7 ^{cm}	0.900 ^{kg}	○		170 ^g	0 ^g		成 熟
"	36.9	0.650	○		100			"
"	36.6	0.620	○		108			"
"	35.8	0.700	○		100			"
"	30.0	0.755		○	3.5			
"	30.2	0.780		○	41			成 熟
"	34.4	0.600			80			"
3. 7	30.6	0.300	○		73			完 熟

第4表に示したとおりで、2回多項目調査した中で、2月12日の調査で雌4尾、雄2尾であった。雌雄共に胃内容物はなく成熟から完熟状態で

あった。3月7日調査した雌1尾は完熟で放卵中であつた。

(4) パバガレイ

魚種パバガレイ

(第5表)

漁獲月日	全長	体重	性別		生殖腺 数量	胃内容		成熟度	備考
			♀	♂		重量	種類		
47年2.12	33.8 ^{cm}	0.418 ^{kg}	○		2.5 ^g			放卵	放卵後のものは腸管内にヒトデ並に不消化物が充満している。
"	30.7	0.355		○	4.0			"	
"	31.7	0.330		○	4.0		貝類	"	
"	38.7	0.700	○		50				
"	35.7	0.500	○		3.0		ヒトデ	放卵	放卵後のものは胃腸内に内容物なし。
"	34.4	0.510	○		80			完熟	
"	35.0	0.500	○		45			"	
"	41.7	0.800	○		110			"	
"	40.7	0.780		○	13		貝類	放卵	
"	35.8	0.485		○	6.0		"	"	
3.7	47.0	1.500	○		220			完熟	放卵寸前
"	49.5	1.600	○		250			"	"
"	46.5	1.200	○		210			"	"
"	39.5	0.700	○		110			"	"
"	39.0	0.450	○		0		ヒトデ	放卵	

第5表に示したとおりで、多項目調査は2回だけであるが、2月12日の調査は雌雄共10尾であったが、共に放卵または放卵寸前のものであった。また、3月7日に調査した雌5尾も完熟（放卵寸前）と放卵後のものであった。

Ⅳ 調査の成果および今後の課題

1. 調査の成果

時化のため操業日数が少なく、調査項目通り満足な調査は出来なかったが、栽培漁業の関連調査で行なった、マガレイ、マコガレイ、パバガレイについては、津軽海峡における産卵期のおよその見当がついた。

2. 今後の課題

この調査は47年の1月～3月まで行なったのであるが、時化が多く操業回数も限定されることから、今後三枚網による調査を実施するのであれば3月以降が適期ではないかと考えられる。